

(別記様式)

令和7年度 府立北桑田高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応した、特色ある教育の創出</p> <p>2 少人数教育により個性を活かし、自ら動き、挑戦し、進路目標に応じた学力・能力を身につけ、将来を切り拓いていくことができる生徒を育てる</p> <p>3 地域や大学等との連携により探求を深め、「広い視野と高い理想」「未知への興味・課題解決の創造性」を育てる</p> <p>4 郷土の自然や文化を学び、地域や京都府を誇りに思い、前向きに地域と係わり貢献しようとする「地域の担い手」「森の担い手」を育てる</p>	<p>・少人数を活かした個に応じた学習指導、進路指導を進めることができた。予備校サテライト講座、進路講習、模試等を効果的に配分し、難関大学、公務員をはじめ、ほとんどの生徒が希望進路を実現できた</p> <p>・ICT教育推進を目標に掲げ、タブレットを有効利用した授業の展開やICTを有効活用した授業研究など活発に授業改善を試みる教職員が世代を超えて着実に増加している</p> <p>・HP、メール、SNS、広報誌、テレビ、新聞等による本校からの情報発信を積極的に行った。本校の魅力を伝える広報活動と入寮生徒の定員に合わせた生徒募集活動と連動させる必要がある</p> <p>・地元に加え他地域や全国募集による入学生の確保に向けた取組を進めたが、寮整備や通学方法など、更なる条件整備を行う必要がある</p> <p>・前年度以上に働き方改革を推進するとともに、本校の特色ある教育活動を損なうことなく一層の進展を図る必要がある</p> <p>・全国的にも稀な小規模校における部活動の成功例となるような活動実績を残すとともに生徒の部活動における充実度、満足度を上げる</p>	<p>1 スクールポリシーに則り地域連携や高大連携等を深め、更なる学校の特色化に取り組む</p> <p>2 学習指導要領の実施やICT教育の推進のため、本校に適した方策を研究し、教職員研修の充実を図る</p> <p>3 多様な生徒や進路希望に対し、少人数教育を活かしたきめ細かな指導とともに、地域や大学等との連携により探求を深め、自ら考え、動き、解決しようとする機会を増し進路実現に繋げる</p> <p>4 本校や地域の発展にも繋がる「SDGs」を教育活動の中心に捉え、学校運営協議会による地元幼小中学校や行政・地域団体等との連携を進め、地域に信頼され、地域の活性化に貢献できる取組を更に推進する</p> <p>5 学科、カリキュラム、学校行事、特別活動、部活動などの特色ある教育活動について、積極的な情報発信を行い、組織的、効果的な生徒募集につなげる</p> <p>6 喫緊の課題として遠方からの入学者が本校を選択できるよう環境整備に取り組む</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織運営	学校活性化の推進	普通科・京都フォレスト科の教育内容の充実	A	A	A	・京都フォレスト科、普通科におけるそれぞれの特徴的なカリキュラムや授業形態を最大限に活かして学びを深めさせることができた。京都府立大学系属高校として令和8年度の開設に先行する形で、設置目的に合わせた計画的な準備と教育実践を並行して行うことができた。年度途中で教員の欠員が発生したが、在校生徒に不安や不満を生み出すことなく、安心、充実した学校生活を提供できるよう全教職員が協力して対応することができた。
		生徒募集に係る諸制度と校内体制の見直し	B			
		地域連携や大学等との連携による特色化と深い学びの充実	A			
	「チーム北桑田」としての組織的で効率的な学校運営	校内各種会議の機能的運営	A	A		
		分掌間・教科間・学科間等,教職員間の連携強化	A			
	働き方改革の推進	退勤時間を意識した業務の効率化・合理化	A	A		
教職員研修の充実	ICT教育関連の研究と教職員研修の充実	A	A			
	多様な社会情勢を生き抜く「確かな力」を養う学校づくり	A				
教育課程の編成と実施	生徒・保護者・地域のニーズと期待に応じた教育課程の編成・再考と実施	教科主任会議を中心に係属校化に伴う課題,修正点の把握と改善を図り,令和8年度以降の教育課程編成に反映させる	A			・府立大係属校化に伴い、系属校準備室及び教科主任会議と連携し、令和8年度教育課程の編成に努めた。次年度も新課程運用と同時に係属校化に伴う課題、修正点の把握に努め、令和9年度以降の教育課程編成に活かす。
学習指導	生徒の学習意欲の維持・向上	教師が生徒と共有できる時間確保のための,主管会議の精選・教育環境の整備・教育計画の工夫と実現	A	A	A	・主管会議の時間短縮、教育計画の工夫等、臨機応変に対応することで一定の成果が得られた。生徒の学習意欲維持向上については、生徒が能動的に学習に取り組めるように、ICTの有効的な活用を併せてさらなる工夫が必要となる。業務のICT化の推進については、Teamsや保護者連絡ツールの環境整備が整い、業務の効率化を進めることができた。
		生徒が能動的に授業・学習に取り組める環境の確保・整備	B			
	さらなる業務のICT化の推進	Teamsや保護者連絡ツール等の環境整備及び運用体制の構築による、業務の削減・効率化	A			
総務企画	学校経営計画に基づいて展開される特色ある教育活動の記録と広報	両学科の学習内容及び学校行事,部活動,地域連携等,全校生徒が創る教育活動と,そこに学ぶ生徒の姿を記録し,広く地域社会に発信する	A	B	B	・広報紙やホームページ,各種説明会で両学科の本校の教育活動を地域に発信することができた。学校説明会の案内,申込をホームページで行う体制を整えたことで業務と経費の軽減につなげることができた。ホームページやSNSでの情報発信を広報活動の主体とすることには課題が残り,外部,特に地域の小中学生及びその保護者に学校の魅力が伝わる広報の工夫が一層必要である。
	次年度入学生の定員充足率70%,美山中学校・京都京北小中学校からの進学率75%達成	学校説明会・個別進路相談等の運営,学校ホームページ等を活用した広報活動を通して,本校を希望する中学生及びその保護者に対して進路指導の一助となる情報提供を効果的に行う	B			

評価領域	重点目標	具体的方策				
人権教育	生徒の人権意識の向上	生徒の実態に即した人権教育の実施と、人権尊重の意識や差別を許さない態度の育成	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習を各学年とも、年間2回実施することができた。人権学習後の感想文は、自分の生き方についてしっかり考えられているものが多かった。 ・教職員研修は「同和問題」をテーマに実施した。
	分掌,特に学年との連携を密にする教職員研修の充実	各学年の課題に対する適切な対応	B	A		
		教職員の世代交代を踏まえ,これまでの人権教育の成果と課題を引き継ぐ取組の推進	A			
系属校準備室	京都府立大学系属高校の開始を契機とした学校特色化プラン及び具体的なロードマップの策定 三者協議〔大学、高校、教育委員会〕への特色化プランの提案と検討課題への対応	学校特色化プランとして先行実施する系属校事業及び学力向上システムの改編部分に係る校内調整と令和8年度に向けた課題の洗い出し	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・開校以来積み上げてきた本校の教育手法に系属連携事業を加えた学力向上システムへの改編に概ね見通しがたった。 ・次年度、本格実施1期生を迎え、学校推薦型選抜〔系属校枠〕も開始される。本年度、先行実施した教育計画に修正を加えつつ、本校の特色として系属連携を定着させることが課題である。
		系属学部系属学科学校推薦型選抜〔系属校枠〕に向けた進路指導方針〔学校推薦基準（校内）の策定を含む〕の決定と周知、具体的取組の試行と課題の洗い出し	B			
進路指導	3年間を見通した進路指導の推進,主体的に進路を切り拓く力の育成,進路に関する情報提供の充実	学年部、各教科と連携し、生徒一人ひとりの適性・能力を的確に把握し、少人数教育を活かしたきめ細かな指導を通して、希望進路の実現を図る	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・手厚い進路相談を通して、生徒一人ひとりの適性・能力・進路希望の把握に努め、きめ細かな進路指導を行うことで、多くの生徒が主体的に進路を切り拓くことができた。一方で、必要に迫られるまで自身のキャリアについて主体的に考えられない生徒も少なくなく、早期から計画的かつ効果的な進路指導を実施することにより、生徒一人一人のキャリア自律を促進することが喫緊の課題である。
		進学講習,サテライト講座,模擬試験等を活用し,学ぶ姿勢の確立や基礎学力の定着を図る	A			
		学校、生徒、保護者が三位一体となって進路実現に向けて取り組むために、保護者への進路情報の提供についてより一層の充実を図る	B			
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識・社会性の養成	「挨拶」「正しい言葉遣い」「身だしなみを整える」等当たり前のことが当たり前にできるようにする	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も生徒指導に関わる事象は少なく落ち着いた学校生活であった。交通安全について無灯火や並列等、地域の方から情報提供はあったが指導後は改善されたように感じる。来年度からは自転車への切符制度が設けられるので学校生活とあわせて「当たり前」の指導を行う。
		SNS等でのトラブルを防げるような場面で啓発を行う	A			
		規則違反やマナー違反・不正を許さず安心して安全な学校生活の推進	A			
	安全教育の徹底	定期的な交通安全指導に加え生徒会とともに交通安全を推進できるようにする		B		

評価領域	重点目標	具体的方策				
特別活動	生徒会活動の充実	既存の行事だけでなく全校生徒が更に充実した学校生活を送れるよう生徒会が主体的に活動する	A	A	A	・学校行事は例年通りの内容だったが、生徒会が中心となり全校生徒が楽しめるよう工夫されていた。少人数であることを生かし、学年を超えた取り組みによって、これまでとは違う学校祭となった。
		学校祭でもICTを効果的に活用できるよう取り組み内容を検討する	A			
健康・ 安全教育	保健管理、 保健教育の充実	配布物の持ち帰り、分別等、ゴミの出し方について指導し、週3日の平常清掃をしっかりと実施する	A	A	A	・清掃箇所を分担して校内を清潔に保つことができた。検診結果によって生徒への受診勧告は出しているが、受診報告の提出率は思わしくなく、課題が残る。保健学習は学年に応じて実施できた。今年度は教員対象にも救命講習を実施できた。特別支援教育に関しては、教育相談会議を通じて生徒の状況把握と支援の在り方について協議することができた。
		各種健診結果により、生徒への医療機関受診を促進する	B			
		救命講習や薬物乱用防止教育、性教育、生命のがん教育を実施し、生徒の健康に関する意識の向上を図る	A			
	特別な支援を要する生徒への指導・支援の充実	生徒の状況把握を徹底し、担任団とも連携して情報の共有を図り、個々の生徒への適切な指導と支援に努める	A	A		
道徳教育	規律・規範を重んじる姿勢の養成	規則や公共の場におけるマナーを守る態度の育成	A	A	A	・授業や学校行事を通して、望ましい人間関係や人間性について考え、実践する機会を持つことができた。概ねルールやマナーに関して大きな問題は無かった
	愛情を持って人に接する人間性の養成	各教科や各分掌との連携を図り、人間として望ましい在り方について考える姿勢の育成	A			
家庭・地域との連携 (PTA)	保護者・地域との連携のより一層の強化	地域とPTAが連携し、地域拠点の役割を担い、地域から信頼を得られる魅力ある学校づくりを行う	A	A	A	・議題の精選を行い、会議の開催数を減らすことができた。 ・PTAだよりをデジタル配信することができた。 ・企画行事を、予定どおり開催することができた。文化祭、耐久走での食品提供では多くの会員の協力を得て実施できた。
	地域への積極的な広報活動の展開	「PTAだより」や学校ホームページ等を活用した広報活動を行い、「みがく、かがやく。」の実践を発信する	A			

評価領域	重点目標	具体的方策				
学校図書館	図書・電子資料の適切な活用力の醸成し,豊かな読書生活への助長	資料の適切な利用促進	A	A	A	・毎月の図書館だよりや授業利用を通して、情報資源の適切な探し方と活用について発信することができた。また、読書推進にも努めた。林業や森林科学についての資料を充実させた。
		各教科での授業利用の推進	B			
		読書活動の推進,読解力向上のための読書推進	A			
	地域文化の資料・情報収集に努め,地域活性化への貢献を図る	地域の特色である林業を中心に地域に関わる資料の収集,展示	A	A		
農場部	「SDGs」持続可能型社会や組織の構築を目指し目標を実現させる教育活動の実践	産学官連携した教育活動の実践	A	A	A	・提携校や外部団体との連携を深めると共に、スマート林業の学習機会を設けるなど先進的な取り組みを進めた。生徒には山林管理や木製品製作などを通じて林業の魅力を体験的に学ばせることができた。教員のスキル向上と最新機器の活用により安全な実習を実施し、資格取得への働きかけによって受験者も増加した。一方で、外部との連携が集中し、生徒・教員への負担が増えているため、行事の見直しが課題となっている。
		提携校（府立大学,府立林業大学校）との連携事業の強化	A			
		職業教育カリキュラムマネジメントの実践	A			
	京都フォレスト科の立地条件や環境・施設・設備等を十分に活かせる教育活動の実践	地域環境・地域資源を活かした教育活動の実践	A	A		
		知識や技術の向上を目指した研修会の実施	A			
		安全マニュアルの作成	B			
	生徒・保護者・地域・社会等の京都フォレスト科に対するニーズと期待に応える教育活動を実践	適時,適切な全体指導と個別指導の実践	A	A		
資格取得の奨励と対策講座の実践		A				
寮務部	安心して信頼され,円滑な寮生活を送るためのルールや規則の徹底	寮生徒とのコミュニケーションを充実させ,信頼される人間関係を構築し,きめ細やかな生活指導による規則の遵守	B	A	A	・寮における生徒指導は1件もなかったが、生活面では部屋の整理整頓や時間を守ることにについて指導する場面が多かった。定期的にルールの再確認を行い、改善に努めてきた。 ・施設は老朽化が進んでおり大規模な改修が難しい状況の中で、破損が多く発生した。破損時には事務部と連携し、迅速に対応するよう努めた。 ・今後も引き続き、設備の点検と必要な修繕を継続していく必要がある。
	安全衛生と快適な生活環境の確保及び施設の充実	一人ひとりが健康維持・増進と安全衛生の確保に勤め,施設・設備の点検と改善による快適な生活環境の確保	A			
事務部	少ない予算を活かした、効率的な予算執行	生徒数の減少に伴う運営費予算の削減を見据えて,光熱費予算等の無駄を省く	B	A	A	・漏水事故が頻発し、光熱水費の無駄が省けなかったが、速やかな対処で被害を最小限に食い止められた。LED化の推進と空調設備更新増設で学習環境の改善が図れた。産業教育設備の故障や老朽化への対応が課題である。
		施設設備の老朽化に対して,状況を分析し更新を含めた効果的な対応を行う	A			

評価領域	重点目標	具体的方策				
第1学年	適切な生活習慣の確立と規範意識の育成に努める	授業を受けるのに適した,落ち着いた学習環境を整備する	A	A	A	・高校生活を送る上での生活習慣の確立に努めた。学校での基本的なルールを理解し、おおむね落ち着いた態度で学習に取り組んでいる。部活動についても、加入率が高く、前向きに高校生活を送ることができている。一方で、学習習慣については定着が不十分なため、進路意識の向上を図り、学習意欲の向上へとつなげていく。また、次学年に大きな学校行事を控えていることも見据え、学年としての協調性を育んでいく。
		服装・挨拶・言葉使いなど,高校生としてのふさわしい態度,および自己と他者の双方を尊重する規範意識を育成する	B			
	学習指導の充実と自主活動への積極的参加を促す	基礎学力の向上のため,家庭での学習習慣の定着を図る	B	A		
		主体的に学校生活に取り組むための一環として,部活動への積極的加入を促す	A			
		分掌・教科・地域・家庭との連携を密にし,学習と部活動の両立を図る	A			
		保健部や教務部と連携して,支援を要する生徒の情報を共有し,生徒の実態に応じた適切な支援をおこなう	A			
第2学年	適切な生活習慣を確立し、規律意識及び社会人としてふさわしい態度を育成する	学校生活を通して規範意識を高め,言葉遣いや服装など,高校生としてふさわしい態度の育成を行う	B	B	A	・学習と部活動等の両立を目指し、意欲的に学校生活を送ることができている。生徒会行事や研修旅行等で、一人ひとりが主体的に取り組み、クラスや学年が協力して活動を行うことができた。英検などの資格検定試験の情報を生徒に積極的に発信するなど、進路を意識した指導を心がけた。今後も社会人としての規範意識の育成を継続し、進路実現に繋げたい。
		授業規律を確保し,家庭学習を習慣化することによって学習意欲を向上させる	A			
	学習や部活動,学校行事等,充実した学校生活がそれぞれの進路実現の基盤となるよう導く	学校行事を通して仲間意識を向上させ,学校の中核を担う学年としてリーダーシップや協調性を育成する	A	A		
		府立大学系属校化を含め,具体的な進路目標を設定し,適切な時期に面談を行い,希望進路を具体化していくことで,進路実現への助言等を行う	A			
第3学年	希望進路実現に向けた指導の充実	日々の授業を基本としながら,放課後の補習,Web学習サービス等を積極的に活用し,確かな学力の育成を図る。また,保護者との連携を密にして,希望進路実現につなげる	A	A	A	・日々の学校生活で授業や補習に取り組み、希望する進路・就職先へ向けた取り組みができた。最上級生として、普段の高校生活や学校行事等で良い人間関係を構築し、それぞれ活躍する場を設けることができた。社会的ルールや集団の規則を遵守する態度の育成にはまだ若干の指導の余地がある。
	社会人基礎力の向上	学校生活や行事等を通じて,学年としての仲間意識や協調性の向上を図る。また,最上級生としてリーダーシップ及び他人を思いやる心の育成を図る	A	B		
		自身の行動に対する責任と自覚を促し,他者に対する礼儀,提出物の期日厳守等を確実に指導し,社会人としての基礎力の向上を図る	B			

教科	重点目標	具体的方策				
国語科	学習習慣を確立することによる基礎学力の定着と生徒が興味関心を持ち、主体的に取り組むことのできる授業を目指す	・計画的、継続的な小テストや学習課題を実施し、基礎言語力を向上させる	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・国語力の基盤となる漢字・語彙の定着のために小テストや週末課題を取り入れることができた。外部講師と連携し、講演や体験事業などを実施して、日々の学びを広げる取組ができた。 ・読書感想文コンクールで賞を獲得した生徒が出た。 ・進路実現に向けた能力の養成を視野に入れ、授業内で書くこと、話すことの指導を積極的に行えた。授業外でも進路実現に向けた個別指導の行い、学習の支援ができた。 ・ICT機器の活用については、引き続き工夫していきたい。
		・授業での学びを広げ、深めるために、外部講師と連携した取組を実施する	A			
		・ICT機器を効果的に活用し、学びの意欲や理解度を向上させる	B			
	実生活で生きて働く論理的思考と表現力の育成と希望進路実現のために支援する	・日常的に読み、書く機会を増やし、主体的な言語活動を通じて表現力を育成する	A	B		
		・自己を見つめ、分析して、表現することで希望進路を実現できるように指導する	B			
		・各種コンクールへの参加を推進する	B			
地歴・公民科	歴史、地理、公民分野において、常に、時事問題や日本の論点に関して考察する授業改善と行うことで主権者として資質向上を図る	「教科書をじっくり読んで、アンダーライン」「板書・ワークシートを写すだけでなく、メモの追記」を授業の基本として徹底し、社会の仕組みに関する知識理解を深化させる	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解、資料解釈に重点を置き、家庭学習として小論文・レポート課題を課すことで思考力・表現力を伸長した。結果、主権者教育に関するコンクールにおいて最優秀賞を含む4作品が入選した。また、オンライン講座を活用した進学対策に完全移行し、進路補習に係る生徒の時間的負荷の軽減を行った。 激変する政治・経済、時事問題を単元とリンクさせて解説したが、時間的な限界があり、精選する必要がある。
		『本時のねらい』の明確化と授業の振り返りを徹底した授業を積み重ね、日々、衝撃的に報道される時事問題への評価や賛否の分かれる日本の論点に対し、資料解釈や表現活動を取り入れながら最善解を考察させる	B			
		地方公共団体、各公益団体、大学等が主催する主権者教育、公共政策・地域創生分野の各種コンクール等に積極的に応募し、上位入選を目指すことで、学習成果の可視化を図る	A			
数学科	コースに応じた授業展開で基礎力、応用力を育成し、様々な大学入試制度への対応を図り、希望進路実現へと導く	多様な生徒の実態に応じ、放課後等の適切な補充指導の実施	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実情に合わせた補習指導を行い、最大限の効果を狙うことができた。多様化していく入試制度や希望進路を踏まえ、個々に応じた補充指導をはじめ、基礎学力・応用力はより一層の充実が必要。
		定期的な課題提出、小テストの実施による基礎学力の定着	B			
		進路希望に合わせた応用力の充実を推進	B			
		スタディサプリと併せて進学補習の充実	A			
理科	生徒の興味関心を引き出し、理科の見方・考え方を働かせながら意欲的に学びたいような授業を展開することで、科学的な資質・能力の育成を目指す	ICT機器や小テストなどを効果的に活用した個に応じた指導の充実により、基礎学力ならびに学習の基盤となる資質・能力の育成を図る	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の特性に応じて適切な指導法を実践することで、基礎学力を身に付けさせることができた。今後は、実験・実習のような科学的に探究する学習活動をより一層充実させることが喫緊の課題である。
		自然の事物・現象について科学的に探究する学習活動の充実により、現代的な諸課題の解決に必要な資質・能力を図る	B			

教科	重点目標	具体的方策				
保健体育科	基礎体力・運動技能の向上と健康の保持増進を図る	規律ある効率的で個々に応じた授業展開により体力と運動技能を向上する	A	A	A	・体育実技では生徒の意欲的な活動により、体力の向上や運動技能の習得も含め、運動の楽しさを主体的に学ぶことができた。また、保健等の座学ではICTを活用することで、主体的、対話的で深い学びを実践することができた。AIの活用も含め教科内で今後もICT関連については研鑽を積みたい。
		様々な種目においてICTを活用し運動技能の向上に取り組めるよう活用方法を検討し実行する	A			
	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を行い、運動の楽しさや喜びを味わうと共に、公正、協力、責任や健康、安全に留意する態度を身につけさせる	仲間との協力やコミュニケーションから様々な事に目配り・気配りできる力を育成する	A	A		
		グループ学習で主体的・対話的に取り組むことによるリーダーシップ・フォロワーシップの育成	B			
		健康運動では、運動やスポーツの多様な楽しみ方を知り、生涯にわたって親しめるスポーツを見つける	A			
芸術科	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る	芸術表現の基本技術の習得	A	A	A	・机間巡視を大切にし、個々の生徒が表現したいテーマに即した指導ができた。 ・前年度の優秀作品を美術室に常設展示することで、作品制作に対する意識を高めることができた。
		芸術作品の基本的な鑑賞力の育成	B			
		芸術を愛好する気持ちの育成	A			
		一人一人と向き合い、創造力や感性を育むゆとりある年間指導計画の実施	A			
英語科	多様な生徒の実態や生徒の希望進路に応じた指導の実践	「予習⇒授業⇒復習」の学習サイクルを確立させるとともに、小テストをこまめに実施する	A	B	A	・実用英語技能検定に合格に向け、普通科文理探究コース以外の生徒にも受験を促進したり、自由英作文や面接の対策を個別に何度も行ったりすることで、資格取得に向けて指導することができた。 ・進学対策として、講習・個別指導を継続し、多様な進路希望を持つ本校の生徒のニーズに応えることができた。また、個別の課題に応じて、学びなおしや発展的な内容の学習を目的としてスタディサプリを活用することができた。 ・ALTは本校や本校生徒の特徴を十分に理解しており、生徒の状況に合わせて内容を調整することで、より効果の発揮できる指導を行うことができた。
		大学入試に対応できる学力の育成を目的とした進学講習を実施する。また、スタディサプリを活用し、学力の向上につなげる	B			
	「4技能5領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと）」の育成に向けた指導の推進	英語で生徒が自らの意見や考えを発信するための力を向上させるために、ALTを積極的に活用する	A	A		
		4技能を測定可能な実用英語技能検定を校内で実施し、CEFRレベルA2以上の資格（英検準2級以上）の取得に向けた、筆記試験や面接・口頭試問の指導を推進する。また、3級及び新設の準2級プラスの受検を促進する。	A			

教科	重点目標	具体的方策				
家庭科	自らの生活課題を解決するために必要な基礎的な知識と技術の育成を図る	生活を主体的に営むために必要な知識と技術が身につくよう課題を工夫する	A	B	A	・地域の福祉施設や行政機関,地域団体等と連携した学習活動を通して地域について学び,地域の課題について考える機会を持つことができた。また外部講師による講演を多く取り入れたことで体験的・実践的な学習を進めることができた。今後も生徒が主体的に活動できるよう授業内容を工夫したい。
		生涯を見通し,生活の中の自らの課題を解決する力を養う	B			
		ICTを効果的に活用し,主体的な学びを工夫する	B			
	地域の人々との交流の機会を通して地域生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を育成する	地域と連携することで主体的に学ぶ機会を設定する	A	A		
実習,体験を通して,実践的に学ぶ機会を充実させる		A				
情報科	魅力ある教材の作成情報の科学的理解	生徒に応じた教材の選定（研修旅行事前学習・本の紹介プレゼンテーションなど）	B	A	A	・文書作成ソフトや表計算ソフトの使い方や、図書館と連携した「本の紹介」の展示、生成AIやプログラミングなどに取り組んだ。共通テストに向けた指導が課題。
		情報モラルやセキュリティ,最新機器に関することの実例の事例による理解の深化	A			
農業科(京都フォレスト科)	林業に関する最新の知識や技術の習得を目指すと共に,京都フォレスト科が持ち得る特性を活かした教育活動を実践する	演習林や木材加工棟での実習を充実させる	B	A	A	・地域の林業団体や住民との交流、各種講習会・発表会への参加を通じて、生徒が最新の知識・技術に触れる機会を確保した。また、一泊研修や文化財見学などの実物を伴う学習により、実習での実践力向上を図った。これらの取り組みにより、生徒が主体的に学び、将来の目標に向けて取り組む姿勢を育成した。
		林業における最新の知識や技術の向上を目指し,実学に基づいた経験,体験を実践する	A			
	職業教育,産業教育を通して,社会で必要とされる人材の育成を目指す	実学に基づいた経験,体験から自己肯定感を高揚させ,社会を生き抜く「確かな力」や「社会人基礎力」の向上に寄与する	A	A		

教科	重点目標	具体的方策				
総合的な探究 の時間	〔第1学年〕 北桑田地域の自然、郷土史、民俗芸能、生活文化を学術的・体験的に学び、その中にある地域社会の諸課題に対する最善解を周り人々と協力しながら求めていく生き方について考える	第1学期（知識・理解）、第2学期（体験・実習）、第3学期（表現）を柱として構成する年間指導計画を創造的に実践する	A	A	A	・本校の特色である「地域と共に育む、学力向上システム」の基盤学習と位置づける本領域においては、新学習指導要領の領域目標、中央教育審議会が答申した普通科改革の方向性から鑑みて、他校の模範となる水準まで到達している。・京都府立大学系属学部系属学科先との親和性を深める科目として、教育計画を改善した結果、キャリアデザインコースの課題作文から論旨発表、文理探究コースの英文によるレポート作成から口頭試問において、顕著な質的向上が見られた。
		普通科キャリアデザインコースは、講義及び実習、フィールドワーク、地域交流を通して、自らの着眼点について、課題作文としてまとめた上で、論旨発表を行う	B			
		普通科文理探究コースは、講義及び実習を通して感じたことを英文でレポートし、英語指導助手の添削指導後、英語指導助手に対し要約説明を自らの言葉で行うとともに、質問に応答する	A			
	〔第2学年〕 異文化に対する理解を深め、その中で出会う気づきや経験を適切に伝え合うことができる力を伸長する	普通科キャリアデザイン・文理探究コース共に、英語指導助手の母国に関する文化や習慣に触れ、自分たちの生活文化や習慣と比較して気がついたことや発見したことを相互に伝え合う	A	A	A	・交際交流で本校を訪れたデンマークの学生との交流を通じ、異文化理解を深めることができた。表現したい内容をより正確に、早く伝えられるようになるという英語学習の動機づけや目標設定の機会として十分に機能したので、次年度以降の指導の場面設定に生かしたい。
		普通科キャリアデザイン・文理探究コース共に、他国生徒との交流機会や検定試験へのチャレンジを意識した取り組みを通して、自分の思いを発信したり、対話するために必要な国際共通言語への変換能力を高める	A			
	〔第3学年〕 京都フォレスト科専門科目『森林科学』の一端を学んだり、大きな統計数値等から相関関係を解析するなどの学習を通して、“ふる里”の財産である里地里山を大切しながら、地域社会に生きる一人の人間としての自覚を高める	普通科キャリアデザインコースは、地域資源としての「森林」に関して、専門的な知見を聴講することで知識量を蓄積する。加えて、担当者から提示されたテーマに沿って、レポートを作成し、そのレポートに関する要旨発表を行う。	B	A	A	・京都府立大学系属学部系属学科先との親和性を深める科目として教育計画に改善を加えた。特に、キャリアデザインコースに、京都フォレスト科教員を配当し、専門的な視点で森林を科学する学びを深化させることができた。 ・講義時間が増加したことで、時間的に無理が生じたことを踏まえ、年間指導計画の精選が必要である。
普通科文理探究コースは、地域資源としての「森林」、産業としての「林業」に関する種々の統計資料等を読み解くために必要なビッグデータの解析方法等を学ぶ。		A				

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北桑田地域の過疎化、高齢化、少子化が、益々、加速すると考えられる中で生徒募集につながる情報発信をさらに進めてほしい。 ・例年以上に、少人数の高校規模でありながらも、文武両道を実践し学習面、部活動ともに生徒たちの活躍の様子が伺える。 ・京都府立大学系属高校として教育内容を充実させ、さらに魅力的な北桑田高校として生徒募集につなげてほしい。 ・自転車競技部を中心に、部活での世界大会、アジア大会での活躍や全国大会での入賞を毎年続けていることは素晴らしい伝統である。 ・美山分校についても素晴らしい教育内容や活動のようについて本校と同じように情報発信して欲しい。
<p>次年度に向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会として、それぞれの委員が今以上に効率的かつ実用的な動きや繋がりが取れるようなシステムの構築が重要である。 ・学校に関わるPTAや後援会、OB会等、学校運営協議会も現状の様子や課題をダイレクトに感じるためにも、いろんな行事ごとに積極的に参加、協力をしていきたい。 ・ボランティア精神だけに頼らず他校や他地域からも情報を集めて、学校行事や取り組みの中で改善につながる事は即、行っていけるよう努力する。